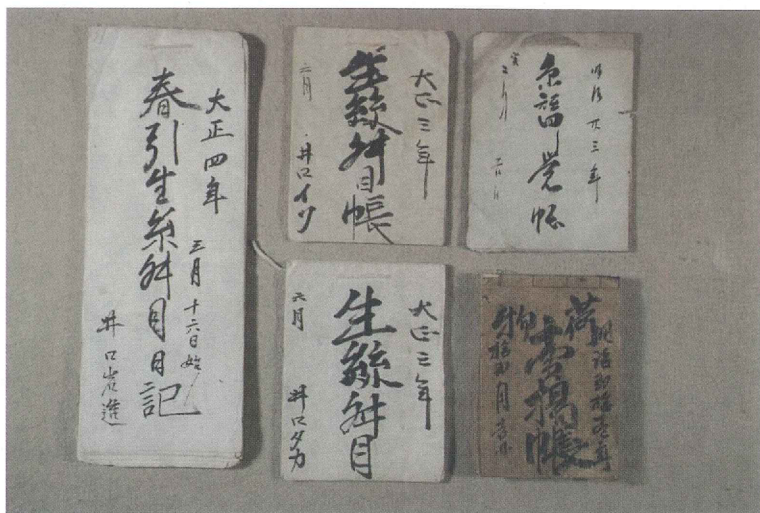


井口美世子家所藏文書



〔指定年月日〕平成一四年二月一三日
 〔種別〕有形文化財（古文書）
 〔名称〕井口美世子家所藏文書
 〔点数〕三八六点
 〔所有者等〕個人
 〔所在地等〕下井草四丁目

井口美世子家所蔵文書

本文書は旧下井草村の井口家に伝来してきた文書で、延享四年（一七四七）から昭和四九年までの二二八年間にわたる文書群である。その内訳は近世・維新时期（延享四年～明治四年）が一点、明治期が一八八点、大正期七三点、昭和期二七点、年代未詳（いずれも明治以降の文書）が八四点であり、明治・大正期に文書が集中している。

この時期井口家は、農業経営の一方、明治二〇年代から昭和初年にかけて、蚕種・繭・生糸の製造・販売、藍の販売、貸家業、金融、薪の販売、沢庵の製造・販売などの諸経営にも積極的に乗り出していった。

それ故、こうした動向を反映した明治中期から大正・昭和初年にわたる商業活動を記録した経営文書が、その大半を占めているところに大きな特色がある。これらの文書は、東京近郊農村において展開した、多角的な経営内容の実態を如実に垣間見せてくれる。

また、明治一〇年前後の小学校の教科書類や、明治から昭和期に及ぶ冠婚葬祭等の人生儀礼にかかわる資料など、文化的・社会的な具体相を示す文書も少なくない。

本文書は主として明治中期から昭和前期に至る下井草の地主・商家の経営や生活を伝える文書群で、杉並の村の暮らし、産業史・商業史等の究明に寄与しうる貴重な資料である。

【文化財所在地】

